

2025年2月期 第3四半期

## 決算説明資料

2025年1月14日

## 古野電気株式会社

### 注意事項：

本資料に記載されている内容は、公表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣による将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのためさまざまな要素により、記載された見通しと異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、当資料の数値表記は、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表に記載の金額は、表示単位未満を切り捨てて表示し、比率その他の数値は、四捨五入により表示しております。

## ◆売上：増収

- 舶用事業は国内・海外の堅調な需要環境が継続
- 産業用事業は主に防衛装備品が牽引

## ◆営業利益：増益

- 舶用事業の機器売上の増加に加え、保守サービス事業を含む利益率向上により収益性の良化

## ◆業績予想：上方修正

- 舶用事業の堅調な需要環境の継続見通しに加え、税金費用の減少により上方修正
- 経営ビジョン（NAVI NEXT 2030）の売上と利益の前倒し達成に挑戦

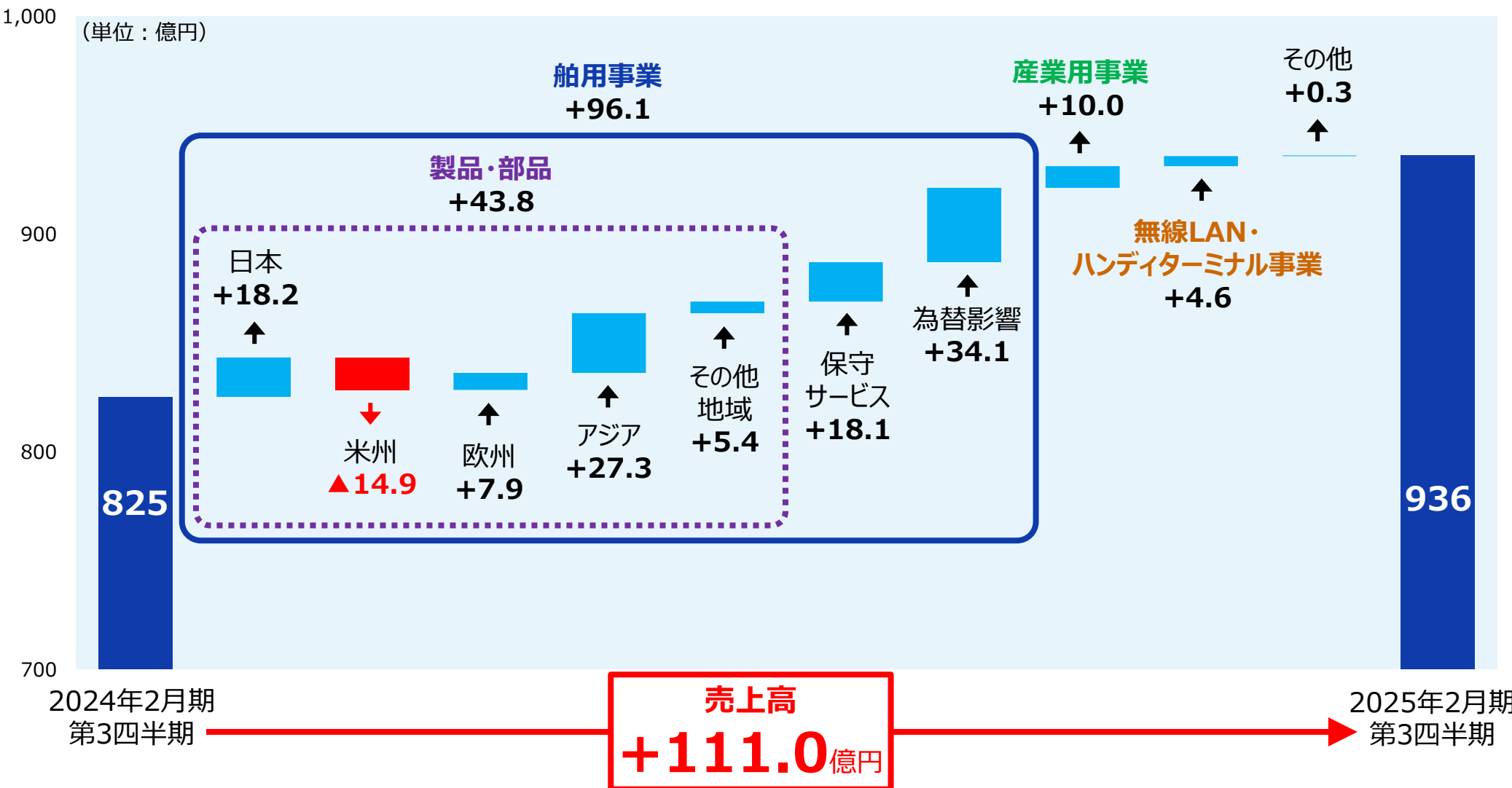
※ 為替感応度（2024年2月期実績値）  
【ドル】売上高：1.2億円、営業利益：0.4億円  
【ユーロ】売上高：1.8億円、営業利益：0.6億円

舶用事業の国内・海外での好調な売上により増収。収益性良化もあり大幅増益。  
製品ライフサイクル管理システムへの投資等に伴い、設備投資額は増加。

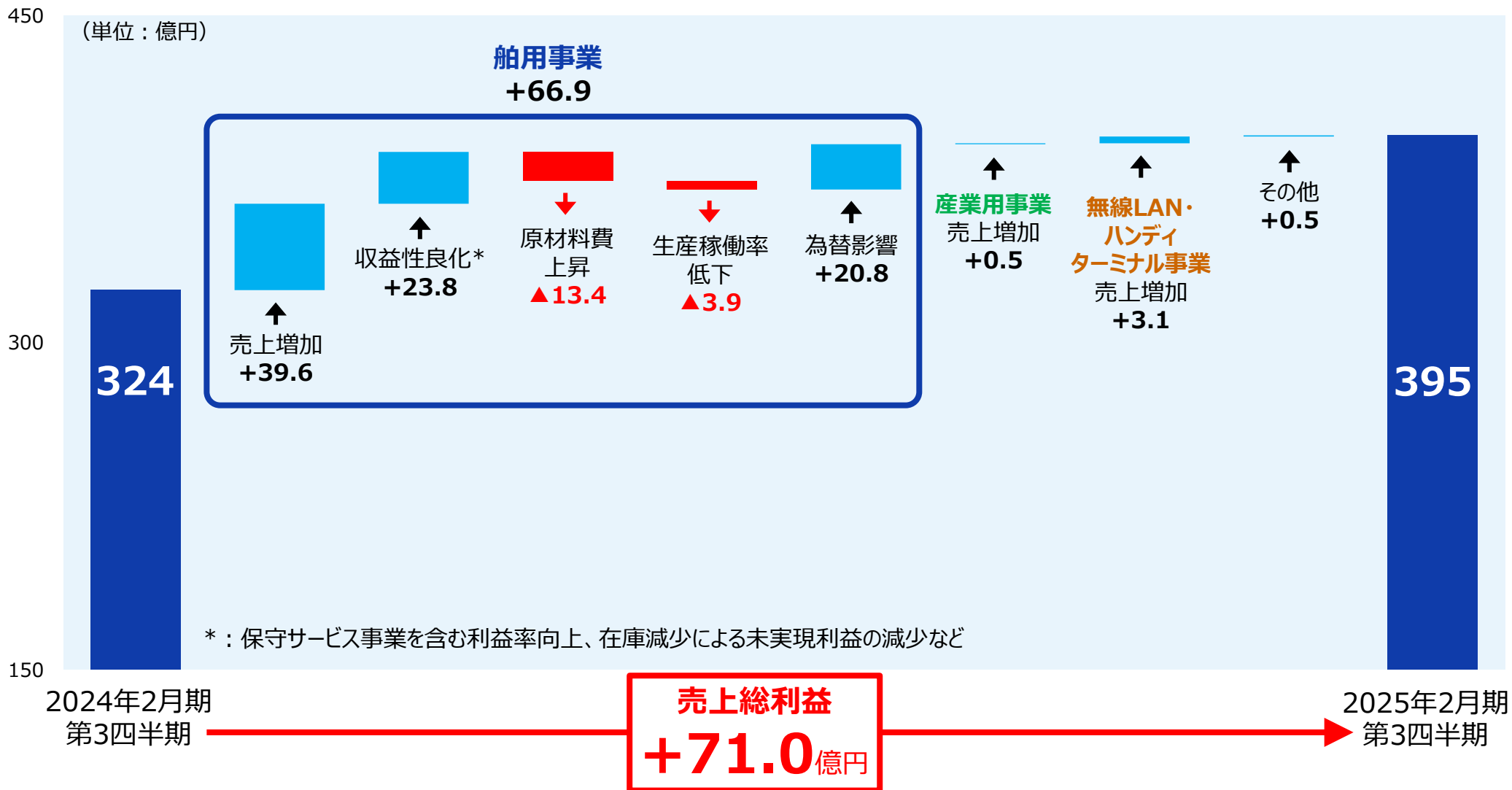
(単位：百万円)	2024年2月期 第3四半期	2025年2月期 第3四半期	増減額	増減比
売上高	82,506	93,600	+11,094	+13.4%
売上総利益 (対売上高比率)	32,406 (39.3%)	39,504 (42.2%)	+7,097	+21.9%
販売管理費 (対売上高比率)	25,978 (31.5%)	29,022 (31.0%)	+3,044	+11.7%
営業利益 (対売上高比率)	6,428 (7.8%)	10,481 (11.2%)	+4,053	+63.1%
経常利益 (対売上高比率)	7,742 (9.4%)	10,828 (11.6%)	+3,085	+39.9%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	6,129 (7.4%)	8,538 (9.1%)	+2,408	+39.3%
研究開発費 (対売上高比率)	4,263 (5.2%)	4,572 (4.9%)	+309	+7.3%
設備投資額 (対売上高比率)	2,245 (2.7%)	3,248 (3.5%)	+1,003	+44.7%
減価償却費 (対売上高比率)	2,518 (3.1%)	2,655 (2.8%)	+137	+5.5%
(単位：円、期中平均レート)				
為替 (対ドル)	138	151	+13	+9.6%
為替 (対ユーロ)	150	164	+14	+9.1%

# 業績ハイライト：売上高の増減分析

船用事業は商船向けの販売が好調につき、日本とアジアで大きく増加。  
産業用事業においては、主に防衛装備品事業が増収を牽引。

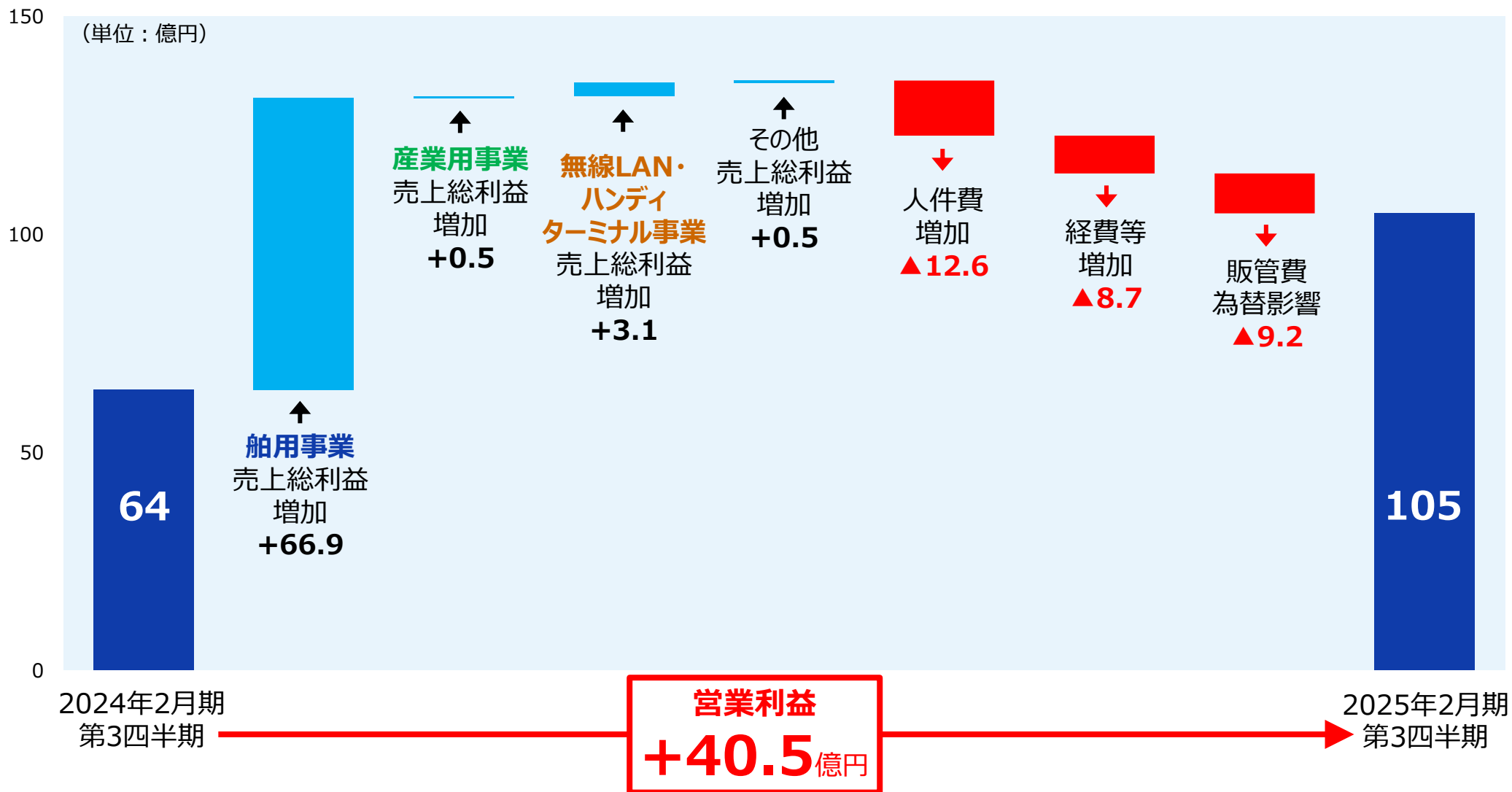


原材料費上昇と生産緩和による影響から原価は増加するも、  
船用事業の売上増加や保守サービス事業を含む利益率向上等により増益。



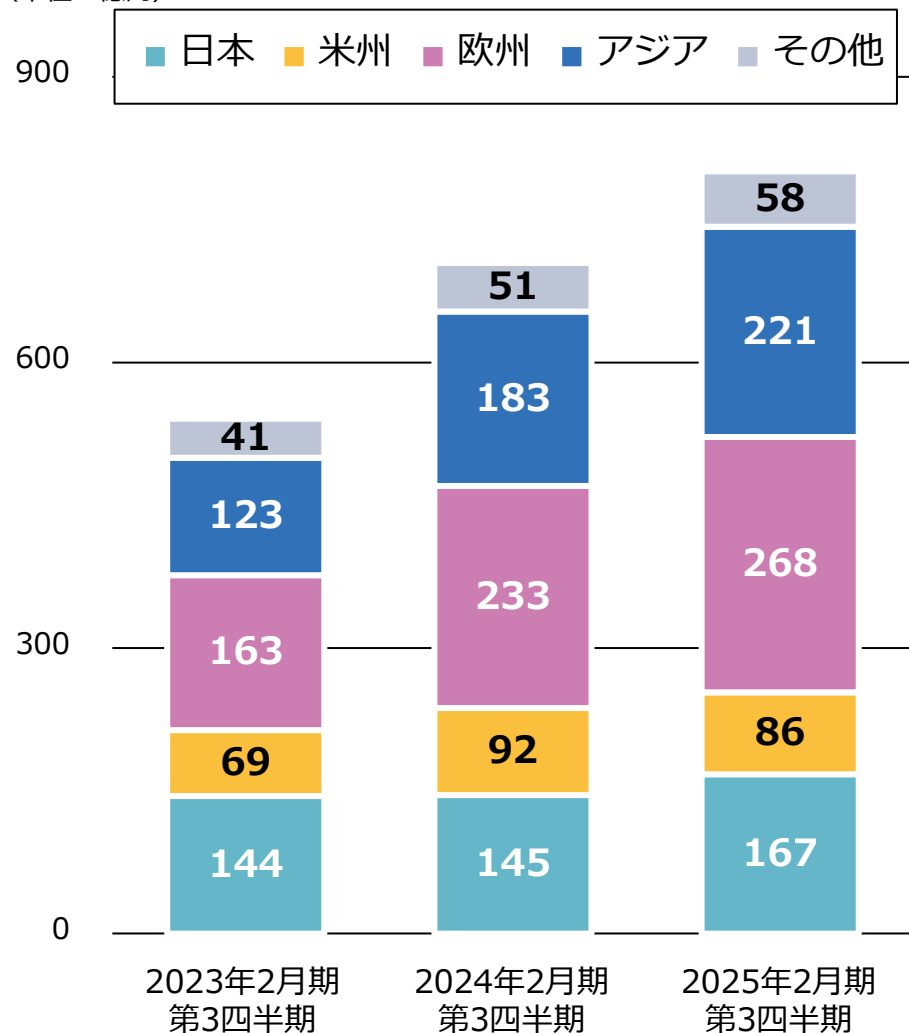
# 業績ハイライト：営業利益の増減分析

給与改定に伴う人件費の増加等、販管費は増加するも、主に船用事業の売上総利益の増加により増益。



## 船用事業 連結売上高（累計・地域別）

(単位：億円)



## 船用事業

売上高 **801**億円（前年同期比 **+13.6%**）

セグメント利益 **104.3**億円（**+38.4**億円）

- 商船向け市場は堅調な需要環境が継続
- 保守サービスの売上は国内・海外ともに増加
- プレジャーボート向け市場は、中小型艇向けは軟調も、大型艇向けは堅調を維持

◆日本：売上高 **167**億円（**+15.0%**）

- 商船の新造船向けと漁業向け機器の販売が増加

◆米州：売上高 **86**億円（**▲5.8%**）

- 大型艇を中心にプレジャーボート向け機器の販売が増加
- 漁業向け機器の販売は減少

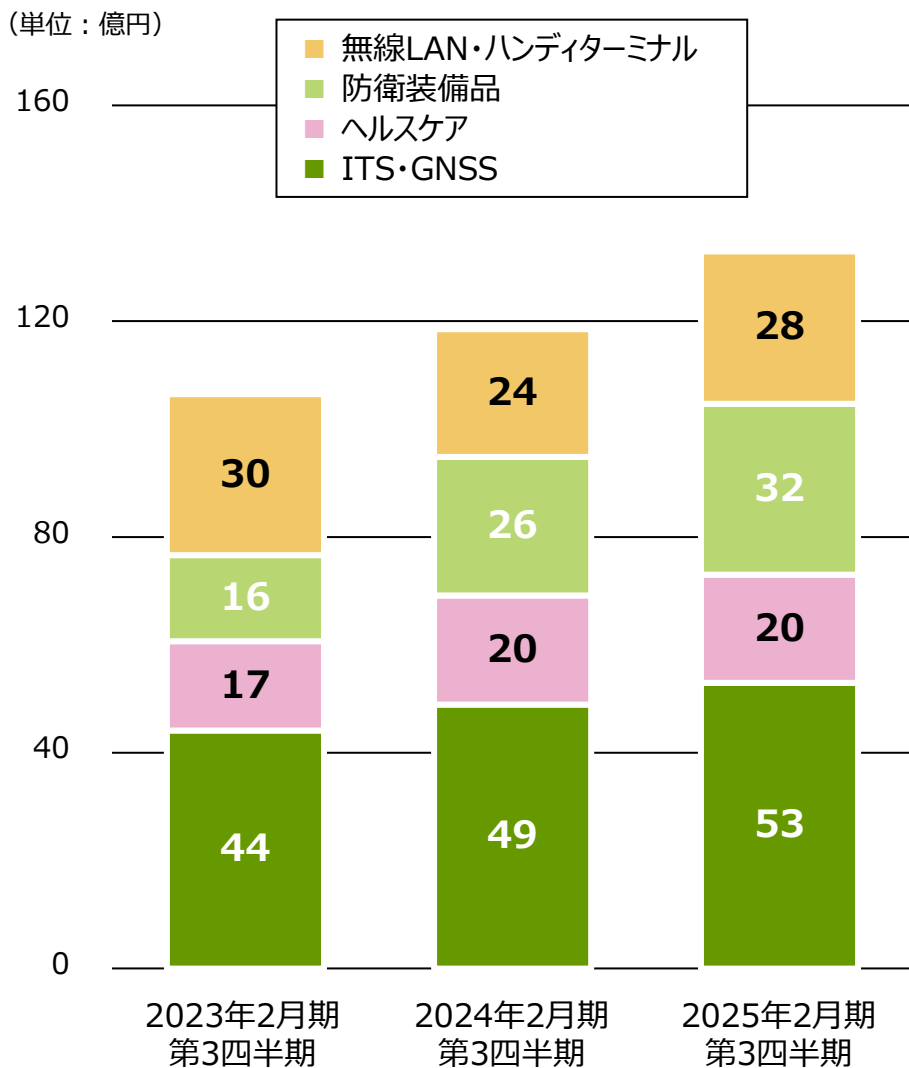
◆欧州：売上高 **268**億円（**+15.0%**）

- 商船の既存船向けとプレジャーボート向け機器の販売が大きく増加
- 保守サービスも好調

◆アジア：売上高 **221**億円（**+20.5%**）

- 商船の新造船向けと漁業向け機器の販売が増加

## 産業用事業、無線LAN・ハンディターミナル事業 連結売上高（累計・事業別）



### 産業用事業

売上高 **104**億円（前年同期比 **+10.6%**）

セグメント利益 **2.8**億円（▲**0.1**億円）

- 主に防衛装備品の売上増加により増収
- 一方、同事業の粗利悪化案件等の発生により減益

◆ITS・GNSS：売上高 **53**億円（**+8.3%**）

- OEM受託製品の販売や時刻同期用製品の海外向けの販売が増加

◆ヘルスケア：売上高 **20**億円（▲**1.1%**）

- 生化学分析装置の販売が前年同期並みで推移

◆防衛装備品：売上高 **32**億円（**+23.4%**）

- 防衛予算の増額を背景に売上は増加

### 無線LAN・ハンディターミナル事業

売上高 **28**億円（前年同期比 **+19.4%**）

セグメント利益 **2.3**億円（**+2.9**億円）

- 第4四半期からの案件の前倒しにより無線LANアクセスポイントの販売が増加



船用事業の需要環境の堅調さに加え、税金費用の減少により上方修正。  
経営ビジョン（NAVI NEXT 2030）の売上高と営業利益の目標前倒し達成に挑戦。

(単位：百万円)

	2024年2月期 通期実績	2025年2月期 前回の通期予想	2025年2月期 今回の通期予想	増減額
売上高	114,850	123,000	125,000	+2,000
営業利益 (対売上高比率)	6,519 (5.7%)	11,000 (8.9%)	12,000 (9.6%)	+1,000
経常利益 (対売上高比率)	8,169 (7.1%)	11,500 (9.3%)	12,500 (10.0%)	+1,000
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	6,238 (5.4%)	7,500 (6.1%)	9,000 (7.2%)	+1,500
為替 (対ドル)	140	149	151	+2
為替 (対ユーロ)	152	163	164	+1

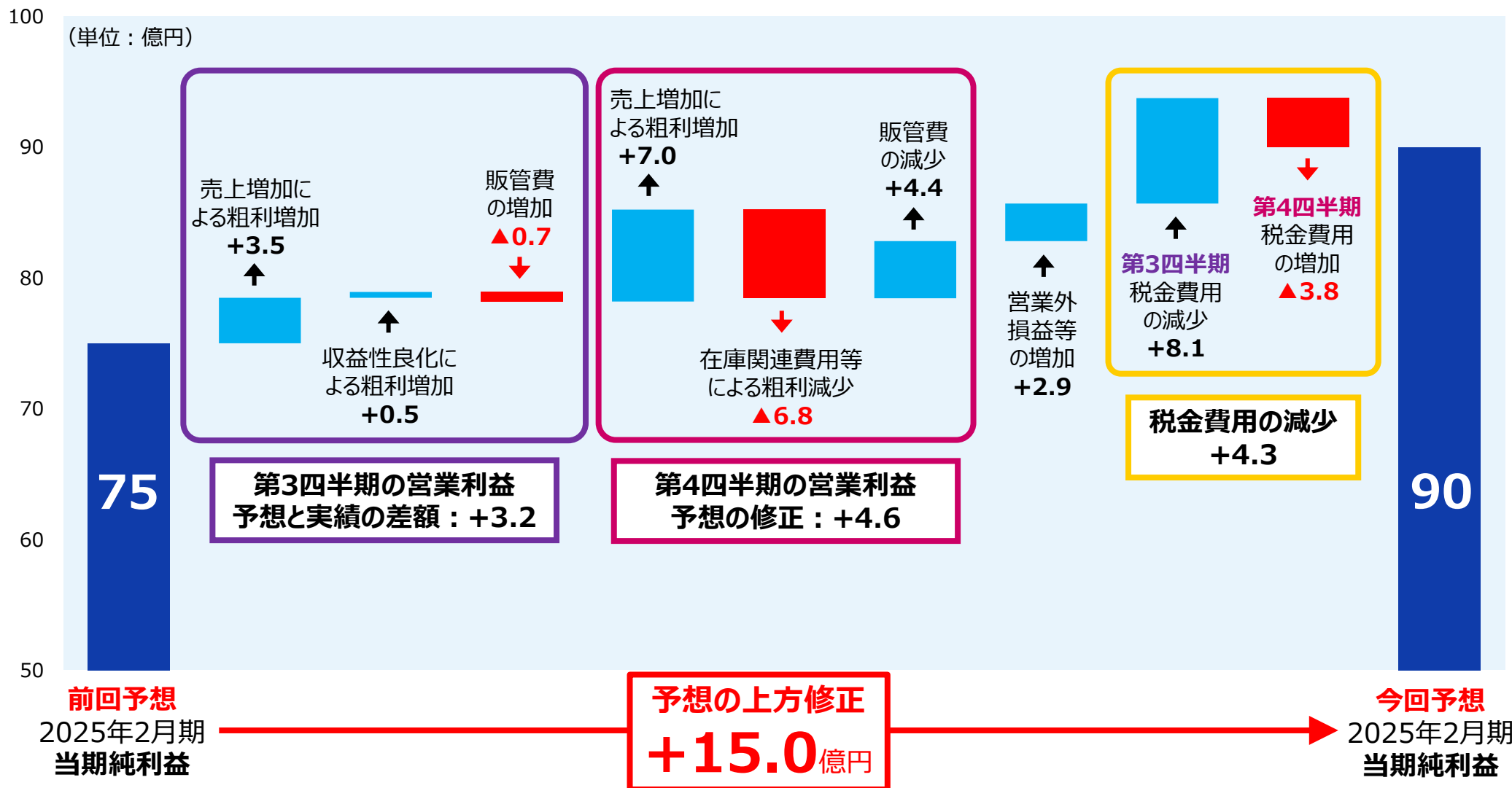
「配当性向30%以上」の方針の下、通期業績予想の修正により配当予想も修正

(単位：円)

	第2四半期末	期末	年間	連結配当性向
2024年2月期	20	40	60	30.4%
2025年2月期・前回の予想	35	40	75	31.6%
2025年2月期・今回の予想	35	55	90	31.6%

# 前回予想からの変更点：当期純利益

主に船用事業の好調な売上増加と販管費の減少見通しにより、営業利益が上昇。  
税効果会計に伴う法人税等調整額の修正もあり、当期純利益の通期予想を上方修正。



在庫関連費用等によるコスト上昇と賞与関連の販管費増加に伴い、4Qの収益性は低下

(単位：百万円)

	2025年2月期 第1四半期・実績	2025年2月期 第2四半期・実績	2025年2月期 第3四半期・実績	2025年2月期 第4四半期・予想
売上高	28,196	34,605	30,799	31,400
売上総利益 (対売上高比率)	11,998 (42.6%)	14,435 (41.7%)	13,071 (42.4%)	11,996 (38.2%)
販売管理費 (対売上高比率)	9,369 (33.2%)	9,765 (28.2%)	9,888 (32.1%)	10,478 (33.4%)
営業利益 (対売上高比率)	2,629 (9.3%)	4,670 (13.5%)	3,182 (10.3%)	1,519 (4.8%)
経常利益 (対売上高比率)	3,136 (11.1%)	4,378 (12.7%)	3,314 (10.8%)	1,672 (5.3%)
親会社株主に帰属 する当期純利益 (対売上高比率)	1,280 (4.5%)	3,787 (10.9%)	3,471 (11.3%)	462 (1.5%)

### 第4四半期の減益要因

【売上総利益】在庫関連費用等の計上（会計処理）によるコスト上昇

【販売管理費】主に海外子会社の業績連動型賞与の計上による人件費の増加

## 収益性改善の取り組みの効果もあり売上総利益率が過去より良化する予想

(単位：百万円)

	2020年2月期 第4四半期・実績	2021年2月期 第4四半期・実績	2022年2月期 第4四半期・実績	2023年2月期 第4四半期・実績	2024年2月期 第4四半期・実績	2025年2月期 第4四半期・予想
<b>売上高</b>	20,484	21,837	22,170	26,346	32,344	<b>31,400</b>
<b>売上総利益</b> (対売上高比率)	6,090 (29.7%)	7,796 (35.7%)	7,581 (34.2%)	9,125 (34.6%)	10,188 (31.5%)	<b>11,996 (38.2%)</b>
<b>販売管理費</b> (対売上高比率)	6,607 (32.3%)	7,403 (33.9%)	7,884 (35.6%)	8,925 (33.9%)	10,097 (31.2%)	<b>10,478 (33.4%)</b>
<b>営業利益</b> (対売上高比率)	▲517 (▲2.5%)	393 (1.8%)	▲303 (▲1.4%)	199 (0.8%)	91 (0.3%)	<b>1,519 (4.8%)</b>
<b>経常利益</b> (対売上高比率)	▲360 (▲1.8%)	1,154 (5.3%)	374 (1.7%)	287 (1.1%)	427 (1.3%)	<b>1,672 (5.3%)</b>
<b>親会社株主に帰属 する当期純利益</b> (対売上高比率)	▲535 (▲2.6%)	1,208 (5.5%)	544 (2.5%)	72 (0.3%)	109 (0.3%)	<b>462 (1.5%)</b>

(単位：百万円)	2024年2月期 通期	2025年2月期 第3四半期
流動資産 (現金及び預金) (たな卸資産)	86,285 (11,786) (46,088)	88,062 (13,820) (44,437)
固定資産 (有形固定資産) (無形固定資産) (投資その他の資産)	28,085 (14,751) (4,902) (8,432)	29,369 (15,260) (5,539) (8,570)
<b>資産合計</b>	<b>114,370</b>	<b>117,431</b>
流動負債 固定負債	39,385 13,550	33,693 15,575
<b>負債合計</b>	<b>52,935</b>	<b>49,269</b>
株主資本 その他 非支配株主持分	55,184 5,856 393	61,361 6,398 402
<b>純資産合計</b>	<b>61,434</b>	<b>68,162</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>114,370</b>	<b>117,431</b>
自己資本比率	53.4%	57.7%

# トピックス

## 次世代統合漁労システム「スマートブリッジ」を日本にて初搭載

海外子会社にて開発した次世代統合漁労システム「スマートブリッジ」が、このたび日本では初めて石田丸漁業株式会社（本社：茨城県神栖市、代表取締役社長：石田和芳）が保有する船舶に搭載されました。



### 次世代統合漁労システム「スマートブリッジ」について

本システムは、漁船操業時の様々なシーンに合わせてモニター表示を自在にカスタマイズできる、閲覧性と操作性を兼ね備えたブリッジシステムです。スウェーデンの当社グループにて開発され、漁業大国であるノルウェーやデンマーク、イギリス、スウェーデンなどで導入を進めており、日本国内では初の導入事例となります。現代の大型漁船は、安全で効率的な運航を行うため、船速計やGPS（GNSS）プロッタ、航海用レーダーなど数多くの機器が搭載されています。また、実際に漁を行う際には、魚群探知機（以下、魚探）やスキャニングソナーを使用して魚群の探知や動向の観察、さらには海底の状況を確認し、潮流計を見ながら網がどのように広がるかを確認しながら操業します。

その結果、漁労長や航海士は航海用から漁労用に至る数十台の電子機器やシステムを状況に応じてそれぞれの画面を確認しています。本システムの搭載により、これまで個別で確認していた各種電子機器をネットワークで繋ぎ、その時に必要な情報を必要なタイミングで一番見やすいモニター上に映し出すことが可能になりました。



トルコの漁船での「スマートブリッジ」搭載イメージ

## 2024年度NMEA最優秀商品賞、最多6部門受賞

2024年度の**NMEA**（National Marine Electronics Association、米国海洋電子機器協会）において**全18部門中6部門で最優秀商品賞を受賞**しました。1971年度にNMEA最優秀メーカー賞「魚群探知機部門」を受賞して以来、54年連続で表彰されています。

### NMEA最優秀商品賞について

本賞は、毎年秋にその年に発売された**船用電子機器の中から最もデザイン、性能、信頼性に優れた商品**をNMEAメンバーの投票によって選出されます。2024年度は全18部門中「レーダー」「NMEA2000センサー」「マリンスペシャリティ」「魚群探知機」、そして「商船機器」の各部門で受賞しました。また、当社のパートナー企業であるNobeltec社が開発したナビゲーションソフトウェア TZ Professionalも「マリンPCソフトウェア」部門で選ばれ、計6部門において当社の関連商品が最優秀商品賞を受賞しました。



#### 【受賞部門/製品】

レーダー部門	Xバンド固体化 レーダーセンサー（型式：DRS4D-NXT）
NMEA2000センサー部門	4アンテナ サテライトコンパス（型式：SCX-20）
マリンスペシャリティ部門	全周型カラースキヤニングソナー（型式：CSH-8L MARK-2）
魚群探知機部門	ネットワークマルチビームソナー（型式：DFF-3D）
商船機器部門	X/Sバンド固体化 航海用レーダー（型式：FAR-2228NXT-BB）
マリンPCソフトウェア部門	ナビゲーションソフトウェア TZ Professional※



## 世界最大の時刻同期の国際会議「ITSF」に出展

2024年11月4日（月）～11月7日（木）にスペインのセビリアにて開催された**世界最大の時刻同期の国際会議「ITSF（International Timing and Sync Forum）2024」**に**ゴールドスポンサーとして出展**しました。

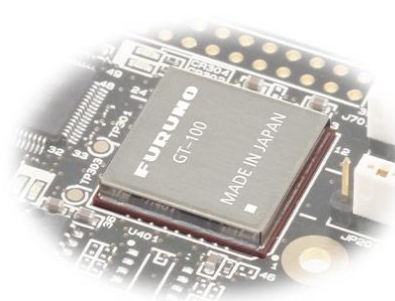
### ITSFについて

本学会には世界中から業界関係者が一堂に会し、4日間にわたって最新の時刻同期ソリューションの展示が行われました。

また、参加企業各社にて、テレコムや証券、スマートグリッド、データセンター等の重要インフラにおける最新ソリューションの講義も行われました。

今回当社は、L1,L5の2周波受信により**世界最高水準の性能“時刻精度4.5ns（1 $\sigma$ ）未満”**と高い堅牢性を兼ね備えた**時刻同期用GNSS受信モジュール「型式：GT-100」**に加えて、同じく2周波受信に対応し、本モジュールと組み合わせて**高い精度と堅牢性を発揮する時刻同期用マルチGNSSアンテナ「型式：AU-500」**を紹介しました。

また技術セッションでは、当社の社員が登壇し、今後の時刻同期にはさらなる性能向上が求められることをテーマに、最先端の測位エンジンを使用した1PPS精度の評価の様子を発表しました。



時刻同期用GNSS受信モジュール  
「型式：GT-100」



時刻同期用マルチGNSSアンテナ  
「型式：AU-500」

## 海を未来にプロジェクト

海に育てられた企業として

海を未来につなげていく。



長きにわたって海に育てられてきた企業として、2023年から新たに「海を未来にプロジェクト」を立ち上げ、啓発・技術の両面から「海を好きになってもらう活動」「海を守ろうとする活動」を推進しています。



▶ スポGOMIワールドカップ兵庫ステージ

ゴミ拾いを競技にした、世界一地球にやさしいスポーツイベントに昨年に続き協賛し、FURUNOからは3チームが出場。当社社員による選手宣誓のほか公式アンバサダーさかなのおにいさん かわちゃんのMC等を通して本大会を盛り上げました。



▶ 阪急阪神ゆめ・まちソーシャルラボ

阪急阪神ホールディングスグループの社会貢献活動「未来のゆめ・まちプロジェクト」と協働。参加者した小学生たちは、海の中で魚がどのように生きているのかを学びながら、海のゆりかご「アマモ育成ポット」を作りました。



▶ 子ども食堂に新鮮で美味しい魚を提供

地域住民や自治体が主体となって無料、または低価格で子どもたちに食事を提供するコミュニティ「子ども食堂」ですが、「食材の調達」特に魚介類の調達が課題といわれています。そんな中、全国の漁港に拠点をもち、漁業関係者と深い繋がりを持っているFURUNOでは子ども食堂の支援を行っています。

## 「統合報告書 2024」を発行

### サステナブルな社会の実現とさらなる企業価値の向上に向けて

当社は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまに、**中長期的な企業価値向上を目指す**ための事業活動や中期経営計画、サステナビリティへの取り組みを財務・非財務の両面からわかりやすくお伝えするために、2023年より統合報告書を発行しています。

発行2年目となる今年度は、当社の「**価値創造プロセス**」「**CFOおよび社外取締役メッセージ**」「**人財戦略**」「**GHGの削減目標**」などを新たに掲載しています。

今後も当社では、統合報告書や公式ウェブサイトによる情報開示の充実を通じて、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、さらなる企業価値の向上を目指してまいります。

- ・日本語版：<https://www.furuno.co.jp/csr/report/>
- ・英語版：<https://www.furuno.co.jp/en/csr/report/>



## 世界初・複数船舶を遠隔航行支援する「陸上支援センター」が完成

### 2025年までの無人運航船の実用化に向けた着実な前進

当社は、日本財団が2020年2月より推進する無人運航船プロジェクト「MEGURI2040」に参画しています。この度、これまで開発を進めてきた**陸上から複数船舶を遠隔で航行支援する「陸上支援センター」**が、当社社屋内に完成しました。本陸上支援センターでは、2025年7月から順次実施する実証実験において、4隻同時に無人運航船の遠隔航行支援を行う予定。

「MEGURI2040」は第1ステージにおいて、2022年1月から3月にかけて、**6隻の船舶の無人運航実証を成功**させています。現在進行中の第2ステージでは、実証実験のみならず社会実装への対応を目指しており、2040年に**国内を走る船舶の50%を無人運航化する目標**の達成に向けて、事業を加速していきます。



陸上支援センターでの業務の様子



個船を監視するブース



## 魚群探知機が「IEEE Milestone」認定

### IEEE Milestoneについて

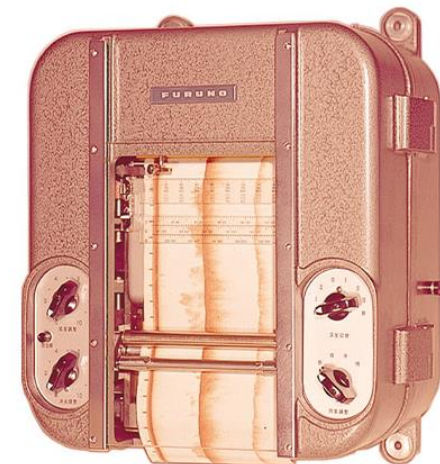
本賞は、電気・電子分野の画期的イノベーションのうち、**開発から25年以上経過し、社会や産業の発展に多大な貢献をした歴史的偉業を認定する制度**として1983年に創設されました。過去にはボルタ電池やフレミングの2極管、さらに日本では二次元コードや東海道新幹線、ハイビジョンなどが受賞しており、2024年までに世界で約260件の業績が認定されています。

(参考：過去の受賞一覧) [https://ieee-jp.org/activity/jchc/milestone\\_jusho.html](https://ieee-jp.org/activity/jchc/milestone_jusho.html)

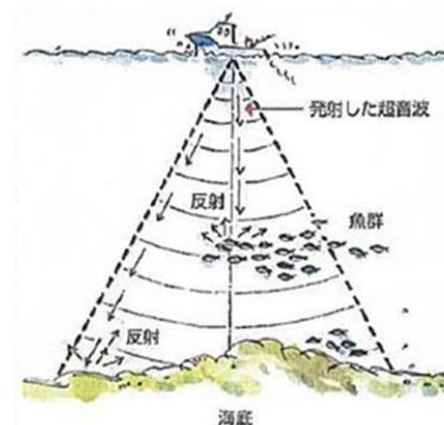
### 認定された「魚群探知機」について

魚群探知機は振動子に電流を流すと超音波が水中に発射され、その反射波を電気信号に変換することにより魚群を映像化して探知する装置です。当時、海深調査に使用されていた音響測深機の受信増幅器を改良し、魚群から反射する微弱な超音波信号を探知できるようにしました。そして、その送受波器を船底に設置することで気泡によるノイズの影響を最小限にする設置方法を考案し、1949年に世界で初めて商品化を行いました。

**開発した魚群探知機を用いてイワシの群れの正確な探知に成功したことで漁獲量が飛躍的に向上し、漁業に欠かせない装備として急速に普及**。漁獲量の向上は戦後不足していたタンパク質の資源確保にも役立ち、日本人の生活の安定に貢献しました。それまで漁師の勘と経験に頼っていた漁業に「科学的な目」を与えたことで、**日本のみならず世界の水産業に大きな変革をもたらし、現在では世界中の漁船に魚群探知機が搭載**されています。



初期型の魚群探知機



超音波による魚群探知の原理図解

# **FURUNOグループの事業概要**

FURUNOは1948年に世界で初めて魚群探知機の実用化に成功して以来、船用電子機器分野において、その独自の超音波技術と電子技術をもとに数々の世界初・日本初の商品を提供し続けてきました。そして今日、世界80カ国以上に販売拠点を有し、世界規模の船用電子機器総合メーカーとして確固たる地位とブランドを築いてきました。

2024年2月29日現在



西宮本社



研究開発棟 SOUTH WING

社名	古野電気株式会社
本社所在地	兵庫県西宮市
設立	1951年 (昭和26年)
事業内容	船用電子機器および産業用電子機器などの製造・販売
資本金	7,534 百万円
従業員 (連結)	3,356 名
売上高 (連結)	114,850 百万円
代表者	古野 幸男
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場

IR情報サイト ⇒ <https://www.furuno.co.jp/ir/>

製品情報サイト ⇒ <https://www.furuno.com/>

企業ブランドサイト ⇒ <https://www.furuno.com/special/jp/corporatemovie/>

# 安全安心・快適、 人と環境に優しい社会・航海の実現





## 商船 向け事業



レーダー



ECDIS  
(電子海図情報  
表示システム)

衛星通信装置

## 漁業 向け事業



ソナー



魚群探知機



潮流計



無線機器

## プレジャーボート 向け事業



レーダー

マルチファンクション  
ディスプレイ



GPSプロッタ魚探

オートパイロット

## ワークボート 向け事業



レーダー

マルチファンクション  
ディスプレイ



GPSプロッタ魚探

オートパイロット

## ITS・GNSS 事業



ETC2.0  
/ETC車載器



ETC車両  
管理ソリューション



GPS (GNSS)  
チップ・モジュール

## ヘルスケア 事業



生化学自動分析装置・試薬



超音波骨密度測定装置

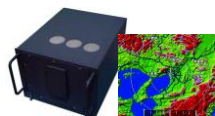
## 防衛装備品 事業



マルチビームソナー測深儀



GPS航法装置



マップジェネレータ  
ユニット

## 無線LAN・ハンディ ターミナル事業



無線LAN  
アクセスポイント



無線ハンディ  
ターミナル